

吉岡町学校ICT教育推進計画『HiBALIプラン2.1』（令和4年度）

吉岡町教育委員会

Hill-town Basis toward the Active Learning Innovation = 主体的・対話的で深い学びの改革に向けた丘の手タウン吉岡町の教育基本構想

Ver. 1.0 (令和2年度)
ICT機器・環境の整備

I

Ver. 2.0 (令和3年度)
学習支援アプリの導入・活用

Ver. 2.1 (令和4年度)
学習・業務での効果的活用

そしてVer. 3.0へ
「不易と流行」デジタル・アナログの融合

群馬県教育イノベーション「群馬ならではの新しい学び」実現による「始動人」の育成

そのためには・・・
育てたい資質・能力の3つの柱をバランス良く育成

生きて働く知識・理解

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かおうとする力、人間性等の涵養

吉岡町の全ての児童達の可能性を引き出すための授業改善と業務改善 「はばプラⅡ」ICT活用Versionをもとにした授業改善

○ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現

- ★吉中「県ICT活用促進プロジェクト推進校」
- ★3校中部教育事務所授業改善推進応援事業

個別最適な学び

- ① 指導の個別化・・・一人一人の考え・特性・学習のライブモニタリング→個別支援
- ② 学習の個性化・・・自己の目標に向け、多様な方法で調べ、学習の深化
- ③ 家庭等、授業以外での学習支援・・・理解度に応じた反転学習
・ミラインド①③ ・GoogleWorkspace② 【授業の振り返り】→
・スタディーサプリ①③ ・Forms②
・Classroom+スプレッドシート③ ・スライド②
・タブレットドリル①③ (学力向上・冊子のドリルを減らし負担も軽減)

協働的な学び

- ① 自らの考えを広げる・・・多様な考えに触れ、共有
→考えを修正・深化・広げる
- ② 個性の発揮と自己肯定感の高揚・・・集団の中での表現
→個性や可能性を発揮、自己肯定感↑
- ③ 遠隔地との交流による多様な学び
・・・他市町村や外部機関、海外との交流
・ミラインド①② ・ジャムボード①
・Classroom② ・スライド②
・Meet③ (友好都市交流、町内音楽交流、英会話)

教職員の意識改革「教える」から「支える」への転換

- ◎指導者から伴奏者・ファシリテータへ
- ◎ICTは文房具(使うことで子供たちが成長するのではなく、どのように使わせるかを教師が試行錯誤する中で教師の力量が上がるから、子供が成長する)
- ◎ベテラン・若手の隔たりを無くし互いの強みを生かす
- ◎ICT活用はスクラップ&ビルド(便利だから今までの〇〇〇の代わりに使う)

○児童・生徒、家庭と学校を繋ぐツールとしてのICT活用

- ★3校「データ利活用調査研究(Gライフログ)」

★Gライフログの活用

- ・毎日の心身の健康観察
- ・悩み(いじめ)アンケート
- ・清潔習慣検査
- ・生活習慣チェック

データを基にした
「学級活動」
「学校保健委員会」の実践

- 家庭からの欠席・遅刻・早退連絡 (Forms+スプレッドシート)



←【欠席連絡】

いつでも学べる!どこでも学べる!つながっている!

- コロナ禍であっても学びを止めないツール
・Classroomによる家庭への連絡、課題配信・回収
・リモート学活や授業の配信による欠席者との連絡 (学級閉鎖や担任不在時のハイブリッド型授業)
・学習支援アプリやAIDリルを活用した自学
・リモート集会(Meet)
- 新しい生活様式への転換
・リモート「教育相談」(Formsによる希望調査)
・リモート「学習参観」
・デジタル教科書の導入(中:英、小:国・算・社)
・L-Gateの導入(ワンストップ化)

○ICTを活用した業務改善

『ICTを活用した業務効率化で教材研究時間の確保』

積極的な校務のデジタル化

- ・家庭からの欠席・遅刻・早退連絡 (Forms+スプレッドシート)
- ・学校・教育委員会からの通信・通知のペーパーレス化 (Classroom、吉岡町メール連絡網)
- ・各種アンケート等(学校評価・通学路点検・PTA総会決議等)集約(Forms+スプレッドシート)
- ・家庭調査票(緊急連絡票)のデジタル化
- ・毎日の宿題チェック(宿題記録カード) (スプレッドシート、学習支援アプリ、タブレットドリル)
- ・通学路点検(Forms+カメラ)
- ・保健関係書類(校務支援ソフトを使った受診勧告等)
- ・校内研修での活用(アンケート・密を防ぐ中での実施) (Meet、Forms、スプレッドシート、Classroom他)
- ・サービス規律確保チェックシート(Forms)
- ・オンラインでの研修参加(Meet、Zoom、Webex等)
- ・週案のリアルタイム更新(スプレッドシート)
- ・キャリアパスポート(サイト・スプレッドシート)
- ・図工・美術等作品展(サイト)

明小・駒小「先進プログラミング教育実践モデル校」実践の目的=「自己調整力」の育成

- ◎プログラミング教育を推進し、Society5.0に対応できる資質能力の育成。
- ◎学びのインプットではなく、アウトプットを活かし、自己調整力を育むことが何より重要。
- ◎必修化されたからやるのではなく、子供たちが引きつけられるような授業へ。
- ◎プログラミングで試行錯誤しながら、失敗することに価値があることを感じ取っている子供が求めているのは、活動の振り返りによって得られる友達や教師からの共感的理解(評価活動)である。